



国際保健トレーニング合宿 2010

～あなたの将来に国際保健はありますか？～

目次

企画趣旨	3
概要	3
プログラム	4
各プログラムの詳細	6
アイスブレイク	6
各種講義	7
ワークショップ	9
PCM 演習	9
ディスカッション	10
キャリアラウンド	10
参加者の感想～合宿全体を通して～	11
運営スタッフより	12

企画趣旨

【テーマ】

本合宿では医療系・非医療系を問わず多くの学生に国際保健を将来の選択肢の一つとして考えてもらえればと思い、サブタイトルを「あなたの将来に国際保健はありますか?」としました。医師や看護師として関わるだけではなく、国際保健にもさまざまな切り口があることを参加者の方々に知っていただくことを目標としました。また、参加者同士、参加者と先生方との交流の時間を大切にしたいと考え企画しました。

【参加者にとっての目標】

- I. 「国際保健」という分野で自分がどのような役割を果たしうるかを明確にする。
- II. 今自分に何ができるのか、何が足りないのかに気づき、次の具体的な一歩を踏み出すことができる。

【個別の達成目標】

- I. 学ぶ：国際保健に関わる様々な視点を理解する
 - (1) 国際協力における国際保健の位置づけを学ぶ
 - (2) 国際保健の中での様々なかかわり方を学ぶ
- II. 考える：ケーススタディを通じて主体的かつ論理的に考えられるようになる
- III. スキルを得る：国際保健に関して実践的なスキルを一つでも身につける
- IV. つながる：他分野の先生方（タテ）や同世代の仲間（ヨコ）とのネットワークを広げる
- V. 行動する：I～IVを生かし、具体的な行動に移せるようになる

概要

- 【日時】 2010年3月7日～11日 4泊5日
初日は東日本地方会YF、国際保健医療学会東日本地方会に参加
- 【場所】 国立オリンピック記念青少年総合センター（東京）
- 【参加者】 24名
- 【対象】 国際保健協力を将来の道の一つとして考えている学生
（専攻問わず、高校生以下除く）

プログラム

第1日目：3月7日（日）		
9:00-16:00	(午前) 東日本地方会ユースフォーラム (午後) 国際保健医療学会東日本地方会	
16:00-17:00	移動	
17:00-17:45	オリエンテーション	
17:45-18:45	夕食	
19:00-19:45	プレテスト	
20:00-21:00	アイスブレイク・1日目の振り返り	
21:00-22:00	入浴・自由時間	
第2日目：3月8日（月）		
7:30	朝食	
9:00-10:30	総論講義 国際保健総論 講師：仲佐 保 氏	90分講義
10:30-11:00	休憩	
11:00-12:15	各論講義1「世界の切りとり方」 講師：丸井 英二 氏	60分+質疑 15分
12:15-13:30	昼食	
13:30-14:45	各論講義2「ロジスティクスと国際保健」 講師：野口 奈佳恵 氏	60分+質疑 15分
14:45-15:00	休憩	
15:00-16:15	各論講義3「国際保健政策と資金」 講師：稲場 雅紀 氏	60分+質疑 15分
16:15-16:25	休憩	
16:25-17:50	ワークショップ・2日目の振り返り	
17:50-18:00	休憩	
18:00-19:50	座談会「国際緊急人道支援」 講師： 中村安秀氏、中田敬司氏、西野るり子氏	講義 20分×3+休憩 10分+ディスカッション 40分
20:30	Welcome Party	オリエン内のレストラン

第3日目：3月9日（火）		
7:30	朝食	
9:00-10:00	PCM 講義「Project Management」	講師：仲佐 保 氏
10:00-10:15	休憩	
10:15-11:15	PCM 講義「PCM とは」	講師：仲佐 保 氏
11:15-12:00	昼食	
13:00-21:00	PCM 演習 関係者分析・問題分析・目的分析 プロジェクト選択	講師：仲佐 保 氏 明石秀親 氏
21:00-21:30	3日目の振り返り	
第4日目：3月10日（水）		
7:30-	朝食	
9:00-11:00	PCM 演習（プレゼン準備）	
11:00-12:45	PCM 実習プロジェクト発表・講評	
13:00-14:30	昼食	
14:30-15:30	ポストテスト	
15:30-16:00	4日目の振り返り	
16:00-19:00	キャリアラウンド 瀬戸口千佳さん、門元記子さん 加藤琢真さん、西村直子さん	プレゼン 10分×4 ラウンドテーブル 30分×4
20:00-	Farewell party	
第5日目：3月11日（木）		
7:30-	オリセンチェックアウト	
9:00-12:00	ディスカッション「自分と国際保健」	
12:00-13:00	昼食	
13:00-14:00	ディスカッション内容発表	
14:00-15:00	全体振り返り・解散	

講師プロフィール（50音順）

各種講義/座談会/PCM 演習

- 明石秀親 氏（国立国際医療センター）
 稲場雅紀 氏（アフリカ日本協議会）
 仲佐保 氏（国立国際医療センター）
 中田敬司 氏（東亜大学医療工学部）
 中村安秀 氏（大阪大学大学院人間科学研究科）
 西野るり子（元国境なき医師団）
 野口奈佳恵 氏（株国際開発アソシエイツ）
 丸井英二 氏（順天堂大学医学部公衆衛生学教室）

キャリアラウンド

加藤琢真さん（横浜市立市民病院、小児科医）

門元記子さん（東京大学大学院医学系研究科公共健康医学専攻専門職課程 2 年、2009 年度 JPO 派遣候補者）

瀬戸口千佳さん（特定非営利活動法人 TICO、事務局員）

西村直子さん（埼玉県立大学理学療法学科 4 年、元 JICA ジュニア専門員）

各プログラムの詳細

トレーニング合宿も第 5 回目となる今年度は、合宿期間も 1 日延長し、4 泊 5 日としました。プログラムにもこれまでにないワークショップや座談会、ディスカッションを盛り込みました。

■アイスブレイク■



合宿初日、初めてあった参加者同士が打ち解けられるように、高校生クイズ形式のアイスブレイクを行いました。初めはごくごく身近な話題から入り、徐々に参加者の皆さんにとっての国際保健とは、という価値観が分かる質問を増やすことで、翌日の講義に向けての導入となるよう企画しました。

【参加者の感想】

- ・途中からじわじわと国際保健に絡む質問がされてよかった。
- ・皆のことを色々知れてよかった。
- ・人数がそんなに多くなかったので、緊張することなく楽しめました。「みんなで」やったというのがよかった。
- ・個別に自己紹介するよりも良かった。
- ・もっと参加者同士で話せるものが良かったかもです。
- ・最初の堅い雰囲気をもっと崩すのにとても良いイベントだったと思います。あだ名も付けてもらえて楽しかったです。

■各種講義■

総論講義「国際保健総論」

講師：仲佐 保 氏

合宿のスタートを切る講義で、まず国際保健とはなにかを総論的に学びます。また、国際協力における国際保健の位置づけを説明したうえで、国際保健の理念、アクター、アプローチや、母子保健、地域保健、感染症、小児保健といった、最近のホットピックスの基礎知識を学びます。

各論講義1「世界の切りとり方」

講師：丸井 英二 氏

国際保健と文化の関わりについて、文化、個と集団、病因論、やまいといった言葉をキーワードに文化人類学視点から考えます。

各論講義2「ロジスティクスと国際保健」

講師：野口 奈佳恵 氏

保健医療分野の開発援助には、エイズや母子保健、感染症対策など、様々な分野がありますが、ロジは分野を横断する分野で、しかも医療のスタッフにとってはあまりなじみのない分野でしょう。ですが、どのプログラム／プロジェクトにも共通する問題です。この講義では、ロジの基本について具体的事例を交えながら学んでいただきます。

各論講義3「国際保健政策と資金」

講師：稲場 雅紀 氏

国際保健を巡る様々な資金の流れに関して、国際機関の動きを中心に学びます。また、それを通して医療以外の面からの国際保健へのアプローチを理解することを目的としています。

座談会「国際緊急人道支援」

講師：中村 安秀 氏、中田 敬司 氏、西野 るり子 氏

この座談会は以下の3点を目的としています。講義に加えて座談会形式のディスカッションを取り入れることで、より多角的、総合的に「国際緊急支援」を考える時間です。

- ・国際保健分野で重要な位置を占めている緊急人道支援（災害援助、難民支援など）について、歴史、アウトラインを包括的に理解する。
- ・国際緊急人道支援を担うアクター、アプローチの多様性を理解し、またインターセクターな協力関係を理解する。
- ・先生方のケースレポートを通じて、緊急支援現場のイメージをつかむ。



「国際保健への様々な関わり方」をテーマとした今回は、医療関係者以外が国際保健にどのような関わっていくことができるか、その道標として、医療人類学・国際保健をめぐる資金、ロジスティクスなどのテーマで専門の先生方に講義をしていただいた。また国際緊急人道支援に関して、「国際機関・政府・NGO」のレベルでどのように関わるができるか、それぞれの立場から現場でご活躍された先生方にお話をしていただき、その後座談会形式で質疑応答を行いました。

【参加者の感想】

国際保健総論

- ・先生の実体験を交えた話がとても興味深く、特にホンジュラスの話が印象に残りました。
- ・詳しい例とともに開設してくださり、わかりやすかった。PCMとMDGsについて、もう少し詳しく聞きたかった。
- ・夢中で聞き入りました。賛成が最後におっしゃった「どんな専門でもいい。全問性は自分で身につける」という言葉は励みになりました。

世界の切り取り方

- ・人類学的アプローチって前から興味があって、今日の話はNon medicalの自分にとって自分にも何かできる余地があるなと思ってきました。
- ・“国際保健とは”というところから文化の線引きなど、幅広く、知ることができ、自分の思うことや気付かされることも多く、とても有意義な講義でした。
- ・おもしろくわかりやすく話して下さって、とてもよかったです。何度も、なるほどー！！と思いました。

ロジスティクスと国際保健

- ・必ずしも国際保健に関わるために学問的知識が必要でないことが分かりうれしかったです。
- ・ロジスティクスの面白さを感じました。考え方を整理して何気なくやっていることも効率を求めていけるんだと感じました。もっと学んでいきたいです。
- ・ロジについての講義をきく機会に本当にまれだと思うのでとても楽しみにしていました。期待以上に新鮮でした！

国際保健政策と資金

- ・政治経済の視点から学生達にも分かる国際保健と資金との関わりを聞いた事で興味を持ったと同時に自分の今までの無知を実感し、専門以外の分野を学びたいと思えた。
- ・政策を行う自国の利益を求めにしても日本が「国の方向性を変える」ことの必要性、縦組みをuniverseなものにしていくこと(とそれに向けた草の根レベルの活動を両立させることの難しさ)と可能性についてどう活動していけるか、を考えたい講義内容でした。
- ・今まで考えた事のないような視点が学べて興味深い内容であった。途上国の保健は発展しにくいのに比べて先進国の保健がなぜ発展していったのか、というところから経済の話とリンクしていく過程がとても面白かった。

国際緊急人道支援

- ・女性で、危険な紛争地域での難民キャンプで働かれている方のお話はとても貴重。
- ・国際機関での体験談はためになった。
- ・普段は日本で生活しながら活動できる国際保健を知れた。

■ワークショップ■



例年、弾丸講義が続くトレーニング合宿。これまでもたびたび消化不良の声が感想としてあがっていました。そこで今年は、総論と3つの各論講義が終わった後に、4つのグループに分かれ、それぞれの講義内容に関して振り返りました。グループで話し合い、発表することで、講義に対する理解が深まるとともに、2日目最終プログラム前の息抜きとなったようです。

■PCM 演習■

講師：仲佐保 氏、明石秀親 氏



途上国でのプロジェクトの立案に用いられる手法である Project Cycle Management(PCM)を実際にケースを用いて学ぶ PCM 演習。4泊5日の合宿の大きな目玉の一つです。今年は6人のグループ4つに分かれて、各グループに1人ずつ合宿班運営委員がファシリテーターとしてつきました。それぞれのグループに個性が見られ、活発な議論の末にできあがった因果関係図は壮観でした。

【参加者の感想】

- ・大変だったけど、とてもよい経験！
- ・ファシリテーターの人のコメントが的確で良かったです。
- ・とても大変だったが、プロジェクトを計画する際の苦労やチームプレイの重要性を学べた
- ・因果関係を見つけるのが大変で、色々つながりがありすぎて大変でした。
- ・皆の熱意が伝わって、すごいと思ったと同時にそんな仲間に出会えて、一緒に合宿に来てよかったしうれしかった!!!

■ディスカッション■



4泊5日の締めくくりとなるディスカッション。テーマは「国際保健と自分」です。合宿を終えた後に次の一步を踏み出す、そのきっかけとなるように、参加者の皆さんに今後の具体的な将来像について話し合ってもらいました。それぞれの班で非常に活発に意見が飛び交い、短い時間の中でとてもクオリティの高いPPTスライドが完成しました。発表で一人一人が自信を持って自分の未来について語る姿が非常に印象的でした。

■キャリアラウンド■

講師： 加藤琢真さん 門元記子さん
瀬戸口千佳さん 西村直子さん



国際保健の現場でご活躍されている若手の実務家の方をお招きして、これまでのご経験をお話しいただき、また小グループに分かれてキャリア相談の座談会の時間を設けました。講師の方々のパワフルで魅力的な人柄に惹き込まれるように参加者からも活発に質問が飛び交いました。

【参加者の感想－合宿全体を通して】

- ・いろいろなことを聞いて・体験して・考えて、とても充実していた。
- ・参加してとてもよかったです。本当に5日間があっという間でした。楽しすぎて眠気が気にならない合宿でした。
- ・スタッフの皆さんフレンドリーで、学生の参加者もフレンドリーで、先生は熱い方達がいっぱいで、4泊5日ホンマにいろんな人に出会えて、話して、楽しかったです！！
- ・合宿を通じて、アクティブで志気の高いメンバーや運営委員の皆さんにお会いできたこと、夢や憧れを持ちながら、自分が何をしたらよいかのとっかかりをつかめたことは一生の財産です。
- ・実際に医療系以外のバックグラウンドをもつ人たちが多くて「いろいろな分野からアプローチできる」というのを実感しました。
- ・国際保健への道は本当に十人十色で「この道に進むべき」という王道はないことが実感できました。自分は今までどう進むかそれで悩んでいたのが安心できました。また、自分の好きなことをしていこうと決心ができたのでこの合宿はすごく人生を動かしました。



全日程終了後、参加者と運営委員で記念の集合写真♪

運営スタッフ（2010年3月当時）

- 山下 創 （宮崎大学医学部 2年）
石嶺 まりあ （立命館大学法学部 3年）
植森 亜紀子 （津田塾大学国際関係学部 2年）
田中 らいら （東京歯科大学歯学部 3年）
船戸 真史 （長崎大学医学部 4年）

運営スタッフより

まずはじめに、国際保健トレーニング合宿に応募して下さった皆さん、本当にありがとうございました。今年は例年にも増して参加者の皆さんに恵まれ、一緒に非常に刺激的な時間を過ごすことができました。タイトなスケジュールにもかかわらず、とても誠実に一つひとつのプログラムに取り組んでいただいたからこそ、無事に全日程を終えることができましたと思っています。

今年は、東日本地方会が合宿の初日にあるということもあり、過去最長の4泊5日間の合宿となりました。「国際保健への様々な関わり方」を参加者の皆さんに知ってもらおうと企画した今回の合宿、参加者は国際関係や法学から医学、薬学まで文理問わず、様々な専門性を持つ皆さんが、全国から集いました。

プログラムもこれまで定番であった現場でご活躍されている先生方からの講義、PCMの演習やキャリア相談会に加えて、緊急人道支援のスペシャリストの先生方との座談会、振り返りワークショップ、将来に向けての決意表明のディスカッションなど新たな企画も加わり、盛りだくさんの内容となりました。

過密なスケジュールの中でも、講義などを振り返る時間を設けることで、学んだことを自分なりに咀嚼し、吸収できるよう、準備段階から様々な試行錯誤を重ねて参りましたが、参加者の皆様にはご満足いただけたでしょうか。また最後に「国際保健と自分」というテーマで、発表と言う形で参加者の皆さんにこれからのビジョンについて語っていただきましたが、これをきっかけに、皆さんが具体的な一歩を踏み出されることを期待しています。

普段、学校では国際保健を志す人は minority かもしれません。ただ全国にはアツい思いを持った仲間が大勢います。全国の思いを同じくする学生や、現場で活躍されている先生方と出会い、共に学び、悩みを語り合い、熱く議論を交わし、未来を語る、そのような場を今回の合宿を通して参加者の皆さんに提供できたのであれば、スタッフ一同、非常に嬉しく思います。

To Be Continued...



Japan Association for International Health
Students Section.